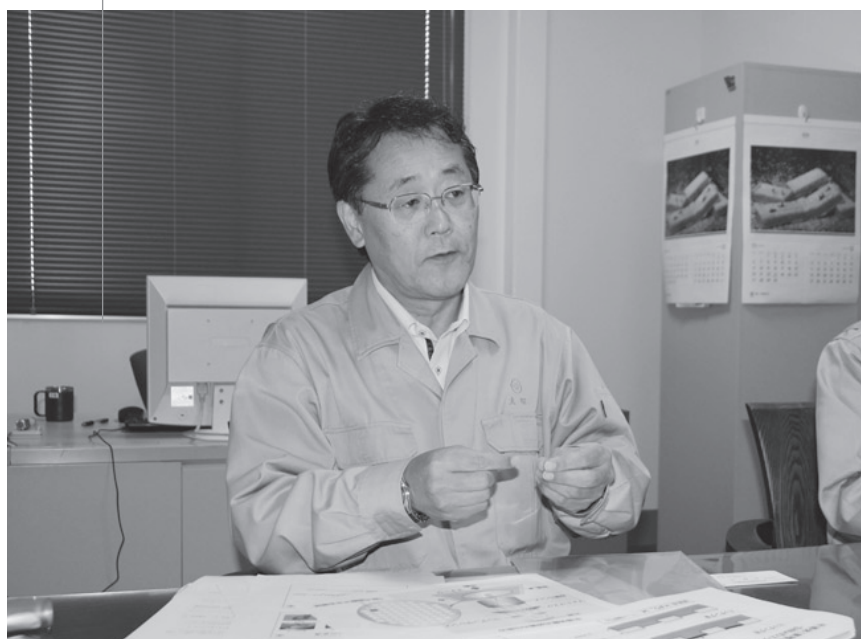


## 身近なリンの新用途開発 風通しの良い職場で 人材育成

磷化学工業株式会社  
代表取締役社長

大塚 肇 氏



今年、設立90周年の節目を迎えられました。

4月に全従業員と軽井沢で90周年を祝いました。長い社史の中には幾多の困難がありました。

当社は1926年に、富山市の現在の稲荷公園の場所で、マッチに使うリンを製造する金山電化工業所として創業しました。1943年に磷化学工業(株)に社名変更し、一貫してリン製品を製造しています。

戦時中は、戦闘機の燃料を作る

時に触媒となるリンを作っていましたが、空襲でプラントが全焼。戦後に復興しましたが、周辺の宅地化が進み、環境意識の高まりから近隣住民からの要請もあり、現在地に移転しました。その時の過大な設備投資や為替の影響で1980年に経営破綻し、会社更生法の下で再建を成し遂げてきました。現在は総合化学メーカーの東ソーグループの一員となっています。

現在は主に、黄リンを原料とす

るリン化合物を製造しています。リン製品はどのように使われているのでしょうか。

リンはとても身近なところで使われています。パン作りのベーキングパウダーの働き促進や、ハム・ソーセージをみずみずしく保つ役割、飲料や缶詰の変色防止や風味やコクを出す働きなどがあり、色々な食品に添加されています。

他にもプラスチックの難燃剤、半導体のエッチング剤、医薬品や化粧品など、多様な用途に使われています。エッチング剤には高純度のリン酸を使いますが、パソコンやスマートフォンの小型化に伴い半導体も微細になり、求められる品質はどんどん厳しく、不純物は0.1ミクロン単位で管理しています。

海外展開はいかがですか。

原料となる黄リンは全て輸入に頼っているため、収益は為替に大きく左右されます。対米ドルで1円変わると、純利益で1,000万円変動します。これまで販売先は国内がほとんどでしたが、為替リスクを減らす意味でも、海外へ販路拡大を図っています。現在、台湾、シンガポール、マレーシア、米国に輸出し、海外比率が10%にまで伸びてきました。将来的には50%を目指しています。

一方、台湾、中国など海外の安価なリン酸が国内に入ってきていますが、当社が手掛けるような高純度のリン酸はまだできず、日本企業の得意とするところです。

### －データを元に市場開拓－

今後の新しい事業展開は。

当社は高機能性、高純度の化合物を得意としており、この特性を生かした事業展開を考えています。昨年外部のデータバンクを利

用して、開発部が市場調査を進めています。新聞・雑誌の情報、研究機関の文献などから、リンの新たな可能性を見つけ出し、事業化に向けた芽が生まれつつあります。

2013年には食添GMP認定制度に登録し、安心・安全・高品質な製品づくりを進めていると共に、製造受託や配合品の混酸にも力を入れ、拡販を図っています。

## 2年前に社長に着任され、どのような会社を目指しておられますか。

風通しのいい職場を心がけています。赴任してから職場懇談会を始めました。課単位での食事などの機会を設け、仕事はもちろん色々な話をしてコミュニケーションを図るもので、会社が費用負担します。懇談会や忘年会などには必ず参加しています。

他にも共済会や労働組合でボーリング大会や麻雀大会、サイクリングなど色々なレクリエーション活動があり、こうした行事にも積極的に参加しています。

## そのねらいは？

変化の激しい世の中です。開発案件の事業化や製造現場の改善を促すために、社内の誰にでも話しやすい雰囲気が大切だと考えています。当社の経営理念は「誠実と和」です。これまで幾多の困難を乗り越えてきたように、これからもみんなが真心をもって、協力していきたいと思っています。

## －安全意識で改善活動－

### 人材教育はどうされていますか。

化学会社ですので、危険物取扱者、公害防止管理者などの資格取得に力を入れています。受講料は会社負担で、合格者には報奨金を出すなどやる気を引き出すようにしています。また、他にも品質管理やリスクアセスメントに関する外部の講習会や経営者協会のセミナーなども積極的に受講させていますし通信教育を受ける人への受講料の補助もしています。

また、入社2～3年目の数名を東ソーの教育研修センターに派遣し、全国の東ソーグループの若手社員と一緒に、模擬プラントを動かし、製造現場での操作感覚の醸成やトラブルシューティングを通じたリスク感性の強化を図っています。参加した者は刺激を受けて帰ってきます。

そして、従業員全員が一人年間4件の改善提案を目標とし、優秀な提案には報奨金も出しています。常に問題意識を持つことで、安全に対する意識の向上にも繋がります。

### 具体的な安全対策を教えてください。

私は東ソー時代に長く製造現場にいましたので、安全の大切さは実感しています。原料の黄リンは空気に触れると燃え、赤リンも衝撃を与えると発火する危険物なの

で、何より仕事中は緊張感を継続することが大切です。事前にリスクアセスメントを徹底し、各作業の前には必ずチェックシートでリスクを確認した上で、仕事に取り掛かる仕組みになっています。

### 採用状況はいかがですか。

人材の確保については地元の学校や企業説明会を通じて行っていますが、この数年間辞めた人はいません。当社は福利厚生がしっかりしており、年間休日数は126日と、東ソーよりも多いくらいですし、有給休暇の取得率も7～8割です。以前から人を大切にする風土があります。今後、事業拡大を目指す上で、開発、技術系の人材を確保したいと思っています。

### 最後に座右の銘をお聞かせ下さい。

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」。宮崎県の高鍋藩出身の上杉鷹山の言葉で、高鍋は私が小学校時代に過ごした町で、偶然ですが、2年間社長を務めた南九州化学工業(株)もある町です。

鷹山は、破産状態にあった米沢藩を強い意志で再建した人物です。もちろん頑張っても出来ないことはありますが、やらないことには可能性が生まれません。やる気の大切さを解いた言葉です。

## 略 歴

1957(昭和32)年、宮崎市生まれ。82年九州大学大学院合成化学修了後、東洋曹達工業(株)(現・東ソー(株))入社。2010年南九州化学工業(株)代表取締役社長、2012年東ソー(株)理事、2014年6月から燐化学工業(株)代表取締役社長に就任。



90周年記念パーティーで改善提案表彰授与  
(4月、軽井沢プリンスホテルで)

## 会社概要

### 燐化学工業株式会社

創 業：1926(大正15)年11月

所 在 地：射水市新堀34番地

資 本 金：1億2,000万円

事業内容：リン酸、リン酸塩類、赤リン系難燃剤、金属表面処理剤、水処理剤等各種リン酸誘導品の製造及び販売

従業員数：82名

売 上 高：28億5,000万円(2015年度)

事 業 所：東京支店

U R L：http://www.rinka.jp/